

学校法人東放学園
東放学園専門学校 殿

2021 年度 学校関係者評価報告書

東放学園専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員

【学校運営に関する有識者】

岸田 真 桜美林大学 芸術文化学群 教授（委員長）

【就職先企業及び業界関係者】

小川 尚人 一般社団法人 日本ポストプロダクション協会（映像・音響系）

深井 一彦 株式会社 パシフィックアートセンター（美術・照明系）

【高等学校教職員】

田口 裕基 日本大学鶴ヶ丘高等学校 教諭

【卒業生保護者】

伊藤 圭一 放送技術科 1 年生保護者

【卒業生】

本島 義和 2001 年放送技術科卒／有限会社 ティ・ビー・フォー

2. 事務局・東放学園専門学校

加藤 諭 校長

堀内 和人 副校長

笹原 恭 教務教育部 部長

亀山 治 学務管理部 部長

浜野 龍也 学務管理部 業務主任

3. 学校関係者評価委員会の開催情報

2021 年 12 月～2022 年 1 月 メールでのやり取りにて開催

4. 学校関係者評価結果

※別紙のとおり

※別紙

4. 学校関係者評価結果

評価内容
4：適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
3：ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取り組みが期待される。
2：対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取り組む必要がある。
1：全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

I. 重点目標について

重点目標 1 募集力強化

コメント	評価
・少子化に加え、コロナ禍もあって、近年の教育機関はどれも学生募集に苦労している。教育機関にあって経済的利益を求めるのは、第一義的なものではないが、助成金もない専門学校において、学生数確保は必然である。学生の多くは、理論より直感で行動・選択することが多いことから、彼等の心に響く効果的な広告を打つべきである。著名なタレント卒業生を使うことも、一つの方法だが、スタッフ・裏方で活躍している卒業生に登場してもらうのもよいかもしれない。 ・コロナ禍が続く中で、本目標を掲げた事に大きな意味を感じます。取り組み内容を拝見し、対象者へのイベント等の見直し、動画のリニューアルなど期待が持てると思います。取り組み3つ目の「学校環境・設備などを改善する」とありますが、2022年、2023年に対して設備投資を含めた中期的な展望を募集パンフ等にし、将来的に必要なスキルを御校で学べる事をアピールすべきではと思いました。 ・多数のオープンキャンパスを開催している事をホームページに掲載している。内容も体験入学を中心にしている事は評価できる。 ・高校の現場で進路指導に携わっている立場からコロナ禍になってからの1,2年で感じる傾向は以前よりも年内に専門学校への進学を決める、つまり第一志望先として専門学校を選ぶ生徒が増えてきたという点である。やりたいことが決まっている以上、即戦力として社会に出て収入を得たいという目的意識がはっきりとした生徒が増えている。入学金が免除されるなど指定校制度にある特典を充実させることを検討してみてもどうか。 ・オープンキャンパスについて、従来の対面型とオンライン型の選択ができハイブリッド化が進んでおり高く評価できる。HPも観やすく、リニューアルした学校紹介動画も学生に刺さる演出で魅力的である。学生に身近なSNSや動画プラットフォームを活用して更なる募集力強化に繋げてほしい。 ・学内プロジェクトによる入学対象者の調査・分析、オープンキャンパスなど、募集イベントの内容改善、学校環境・設備などの改善。以上3つが達成計画と取り組み方法となっているが、コロナ禍で留学生が入国できないなども予想される上に各家庭の経済状況の悪化などもあり、今後の入学者を確保するのはこれまで以上にハードルが高いと感じる。学校のアピール力の向上が必要である。	3

重点目標 2 授業内容などの見直し

コ メ ン ト	評 定
・SNS の登場によって、メディアに対する若者の態度は大きく変わった。今や、誰でも、どこからでも発信できてしまう時代である。スマホがあれば編集さえ、簡単だ。旧態依然としたカリキュラムでは、時代の要請に応えることはできない。特に放送業界は、先端にあり、変化の速さも他業種とは比べものにならないだろう。Youtube やウィキペディアを見れば、たいていのがわかってしまう現代にあって、学生のニーズに合わせ、かつ少し先をいくコンテンツが必要とされている。それには外部の識者の意見を聞く機会があった方がよいかもしれない。 ・重点目標 1を掲げているので、それに沿った重要な取り組みと考えます。オンラインが当たり前の世の中になって来ている事を有効に活用し、学生たちの為に業界人たちの生の声を、テーマを設け定期的に授業に組み込むなど良いかと思います。資料は必要ですが、オンラインであれば講師が移動する必要はありません。 ・業界の動向や人材ニーズの情報収集をして授業内容の見直しを図っている事は評価できる。時代に沿った見直しを今後も進めてほしい。 ・重点項目2は1とも密接に連携していると考えます。貴学に生徒が求めるのは貴学で学ぶことにより、就職して即戦力として働けるかどうかという点である。そのためには企業がどういう人材を求めているのかという情報を常にアップデートしていく必要がある。 ・業界の動向やニーズに目を向け、関連業界や卒業生とのパイプを活かした情報収集が出来ており、授業内容の見直しへの努力が窺える。貴校の SNS や HP から拝見出来るように、e スポーツをはじめとするイベント業界のゼミ等が含まれてきたことは同業者として嬉しい限りである。イベント現場では映像音声だけでなく配信業務や Web 会議システムの管理(zoom・webex 等)も業務として定着しており、そこでは適切な対応力と応用力が求められてくる。様々な業界を知ってもらい、学生に目指す職種の選択肢が増えるような授業内容の見直し・新規科目の開設に期待する。 ・関連業界などの動向調査・分析、専門分野の団体・企業などの連携強化、関連業界などの動向に適合した新規科目の開設、教育力向上、オンライン教育の活用などによる教育成果の向上。以上 5 点を達成目標・取組方法としている。各関連業界や専門分野の団体・企業との連携を強めより実践的な授業を期待したい。就業後の即戦力を生み出すことが出来れば企業からの評価も上がり就職率向上になると感じる。オンラインも活用の上、今後も研究と情報入手に努めていただき授業に反映して欲しい。	3

コ メ ン ト	評 定
・Campus Plan の有効活用に加え、Google Classroom の利用によるオンライン教育を実施している。テクノロジーの進化は驚くべきものがあるが、専門的知識をもった教員がいれば、新しいツールへの対応は問題ないであろう。学生対応のみならず、学内業務にも ICT を活用されていることと思う。 ・「継続は力」と思います。オンラインを軸に、若者に寄り添ったコミュニケーションを強化してください。教職員の皆様にとっても様々な学科間での情報共有が出来るようにお願いします。 ・Google Workspace などを利用して学生サービスの向上を図っている事が伺われます。ただ授業については対面授業も大事であることから、オンライン授業とのバランスを図ってほしいです。 ・「学園総合情報システム」の運用が軌道に乗ると同時に導入のメリットデメリットも浮き彫りになってきたと思われるので、導入目的である「業務の効率化」が本当に図られているのかについて客観的データに基づいてエビデンスを収集し、検証する必要がある。 ・オンライン授業を促進する上で「SARTRAS」への登録は必須と認識していたので進捗していることは評価できる。ICT 化の促進に向けて貴校が万全な体制を構築していくことは当然であるが、課題にもある通り、学生の通信環境の整備も平行してサポートし、安定した双方向の授業が出来るよう進めてほしい。 ・学園総合情報システム「Campus Plan」を活用しこれまで同様業務の効率化と教職員の情報共有を促進して欲しい。Google Classroom などの活用によりオンライン教育や学生とのコミュニケーションを促進。コロナ禍で便利なツールが教育現場でも広がりオンラインの活用によって授業方式が大きく変わったと思う。良い点を残し、悪い点を改善しながら ICT を活用して教育現場を効率的かつ有益に使用していただきたい。	3

Ⅱ. 評価項目別取組状況について

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

コ メ ン ト	評 定
・自由と創造を尚ぶ建学精神を重んじ、放送専門の知識、技術を教育する理念は、実践され続けられている。 【TOHO メソッド】も浸透していることであろう。様々なエンターテインメント業界で活躍している卒業生の存在が、その正しさを立証している。 ・御校の取り組みは、しっかりと先を見据えた状況であると感じます。コロナ渦が続く現在、しっかりと関連企業との連携、業界が求める声をカリキュラムへ反映されていると思います。今後、更に業界変化が生じるとはいますが、この軸となる理念、目的、育成を継続される事を望みます。 ・基本理念、使命、行動指針、教育方針が明確であり、ホームページに公表している事は評価できる。今後も時代のニーズに沿った理念を掲げてほしい。 ・貴学の「基本理念」「使命」「行動指針」に基づく学園運営方針を外部の人間、特に受験生や保護者にわかりやすく、共感を得られるようなものにする努力や工夫が必要と考える。また、それをいかに発信するかについても検証も継続的に実施すべきである。 ・理念や目的が明確で浸透しやすい内容となっている。特に卒業生であり業界にいる立場になった今、より共感できるものがある。また実績も伴っていると感じる。貴校独自の「TOHO メソッド」は卒業して約 20 年たった今でも記憶に残っている。現在は周知・発信の場、またそれを見る機会や環境は増えていると思うので、うまく活用して浸透されることを期待している。 ・基本理念であるが「基本理念」に基づいた「使命」「行動指針」については十分評価できると感じます。理念などは、年中目にするものではありませんが目指す方向性を指し示すものであります。自ら課題として挙げていましたが、学生・教職員すべての学校関係者に基本理念の「己と和と成長」そして TOHO メソッドを浸透させることができるかをご検討いただき今後期待します。	4

コ メ ン ト	評 定
・2019 年から始めている 5 ヶ年事業計画は、軌道にのっているのでしょうか？コロナ禍により、多少の軌道修正は求められるかもしれない。運営方針も教職員向けウェブサイトで周知されているのだから、問題はないと思われる。 ・2019 年度からの 5 ヶ年計画に基づいている点、このコロナ禍で 2 年が経過する現在、しっかりと状況変化を捉え、年次計画で軌道修正を行っている。オンライン化が常道となった現在、人事評価も難しい面もあると思うが、目標達成の仕組みを有効にかつ、柔軟な体制でモチベーション向上に努めていると思う。 ・事業報告書をホームページに掲載し、事業概要、財務状況等を公表している事は評価できる。今後も透明性を持った学校運営にあたってほしい。 ・改善点の把握に努めるだけではなく、改善につなげるための対策もされているかと思います。 ・5 ヶ年事業計画を基に適切な取り組みが成されていると思う。“ニーズに合わせて、変わる”という柔軟なテーマを今一度認識して、建設的な学校運営にこれからも期待したい。特に「情報システム」は学校運営、また学生支援においても重要な根幹部分であるので、改善方策にあるようにセキュリティ対策の見直しを徹底して頂きたい。 ・運営方針に基づき今後 5 ヶ年の事業計画を策定し具体的な施策に乗り出している。人材確保と育成が行われ法改正に則った賃金制度・採用制度・人事考課制度などが整備され健全な体質を維持している。階層別に会議体を設置し必要に応じた意思決定が円滑になされており、今後も適切かつ円滑な意思決定システムの確立を願う。	3

基準 3 教育活動

コ メ ン ト	評 定
・教育課程編成委員会の設置による見直し、改定を毎年実施していることは多いに評価できる。また授業評価アンケート実施によるフィードバックや、学内技能検定制度の施行など、様々な角度から、より良い教育活動ができるよう工夫されている。 ・様々な資格、検定に取り組む姿勢は大いに評価したい。但し一部古く、現在に見合わない技能検定もあり、見直しを希望します。(Sony BVE-2000 や Deko 等、編集機はまだ使用できますが、今後 VTR は不要になり、テロップ作成も Deko から現在は TFX や Photoshop へ移行しております)機材を扱う学科などでは、業界関連のメーカーや販社さんなどとコラボレーションし、今の機器トレンドを授業に反映するのも良いかもしれません。 ・実務経験のある教員による授業が充実しているように見えます。また、実習授業時間も多く有意義だと思います。資格取得講座、就職講座もあり充実したカリキュラムを構成していることは評価できます。 ・大学と異なり、専門学校には業界のニーズに柔軟に対応するフレキシビリティが求められる。したがってカリキュラム編成に先立ち、各業界のトレンドを的確に捉えていくことが不可欠である。日常の業務に追われると外部研修に出る機会も減り、出る人も特定化されてしまう傾向がある。 ・コロナ禍において、業界全体に大きな変化や制限が起こったと同様に、教育活動にも大きな転換や見直しが必須となったのではないと思う。これまでの教育活動における貴校の体制は十分に評価できるので継続していきつつ、今こそ強みである業界とのパイプを活かして正しい情報収集に努め、学生への的確な教育の提供と組織体制の充実を期待する。 ・教育課程は、毎年、見直し改定を行っており各授業科目の目的や概要、計画、修了に係る授業時間数、成績評価方法などは、学生ガイド(シラバス)に明記されており履修登録の指導は、各クラスアドバイザー・教務事務担当が行い学生を導いている。企業などと連携しながら卒業生や講師などを通じて、恒常的に関連業界の意見聴取を行い職業実践専門課程認定校としての教育活動の充実さを感じ、高く評価する。	3

基準 4 学修成果

コ メ ン ト	評 定
・就職率の目標設定を定め、就職アドバイザーを配置するなど学内にきめ細かな指導がなされている。また TOHO 会との連携により、広く卒業生とのパイプも強めている。人脈が重要な業界において、努力を怠らない姿勢は評価できる。 ・就職率に関して、2019 年度と比較すると、やはり新型コロナの影響は否めない。これは企業側の問題であると推察します。しかしドロップアウト率の軽減は評価できると思います。企業との連携、説明会を継続し幅広い活動をされていると思います。 ・就職率が高いことは大いに評価できる。またディプロマ・ポリシーを明確にしている事は評価できる。 ・学修成果を学生本人が実感するのは社会に出てからだと考える。在学中に実感する機会はあまりないのではないかと。したがって、資格取得よりも卒業生の社会的評価を広く拾い出せるような努力として、同窓会だけでなく、教職員全体で自分の卒業生の動向を探り、それを集約しようとしていることは評価できる。 ・「就職率」の目標値が未達成となったとはいえ、コロナ禍で社会全体が低迷し、特にエンターテインメント業界が厳しい情勢の中で良い値を出していると評価したい。ただ、学修成果の目標として第一に「就職率」を掲げている以上、原因追求と目標達成への改善策は必要であると思う。一部イベント業界ではオンラインも取り入れたハイブリット形式により、コロナ前のリアル開催時よりも手数が増えた為、むしろ人手不足な現場も多くある。新規開拓も踏まえ、これまで以上に関連業界や卒業生との連携を密に取り、学生に対して適切なアドバイスとサポートをしてほしいと思う。 ・学修成果を推し量る目標の一つとして就職率を掲げている。コロナ禍にあって前年度との比較はデータ上 10%近く下がってはいるが、社会的な見方からすれば軒並み採用活動を辞めた企業が多い中、在籍者全体での就職率 73% は、評価できるのではないかと思います。数字として表れる結果はともかくとしてこのコロナ禍で企業との接点を作るのも難しい中努力した結果が見受けられる。	4

コ メ ン ト	評 定
・メンタルに問題を抱えた学生や、様々な事情をもつ家庭がある。そのすべてに対応することはできないが、クラスアドバイザーや専任カウンセラーを置き、適切に対処しているように思われる。また保護者との連携も、これからは重要になっていくであろうが、その対策も考えられているようである。 ・コロナ禍に於いて、非常に苦労をされた事と思うが、しっかりと学生支援の体制対応を行っている。特に学業とは離れるが、保健室の設置や健康診断の実施、留学生に対するビザ申請のサポートなど評価できます。保護者との情報共有に関してはコロナの状況から致し方ないと判断します。 ・求人情報検索システム、キャリアサポートセンター等での就職支援が充実しているように感じる。また、学生の健康、メンタルに対する相談サポート体制もしっかりしている事は評価できる。 ・コロナ禍で経済的困窮者も増えている中で各大学は奨学金制度の充実を図っている。貴学も既存の奨学金制度のさらなる充実を図る必要がある。具体的には人数制限などの見直しを図るなどの方法が考えられる。経済的事情で貴学への入学を躊躇している学生の背中を押し、在学生のドロップアウトを防いで頂きたい。 ・支援体制は手厚く充実した内容になっていると思う。精神面・生活面・就職面など、様々な事情で悩んだり救済を求める学生の取りこぼしがないように、パーソナルデータシステム等をうまく活用して引き続きのサポートをお願いしたい。「キャンパスプラン」の導入により保護者が学生の情報を把握出来るように模索する件については期待したい。特に離れている地方の親御さんからすると有益な情報と安心材料になると思う。 ・コロナ禍にあって学園祭などの行事もこれまで同様のような実施が出来ずオンライン開催などでの実施となった。社会的状況を鑑みながら対面授業を再開し授業の他、行事や就職活動もままならない状況であったと思うが教職員がまとめり学生支援を行った結果がドロップアウト率の軽減につながったのではないかと評価する。今後もパーソナルデータシステムを活用しながら学生とのコミュニケーションを大事にして学生を導いていただくことを期待します。	4

コ メ ン ト	評 定
・いくつかの専用スタジオを作り、図書館や学生相談室も用意している。また「企業研修制度」を整備し、内定者へのフォローも怠らない。学生に対して必要にして十分な教育環境が整えられている。 ・機材更新に関しては、投資が必要な事から容易ではないが、オンライン化が進む中、業界関連の情報を収集し計画を早める事をご検討頂きたい。コロナ対策などは、しっかりと行っており評価できる。インターンシップなどにもコロナの影響があり苦勞されると思うが、関連企業との連携を強化してほしい。防災等に関してはしっかりと対応している。 ・テレビ、ラジオ、照明専用等のスタジオが設備されていて教育環境として充実している事が伺われる。またカメラ、編集用機材類も多数揃っている事は評価できる。 ・貴学の特性上、高額な機器の更新、保守に多額の費用がかかることは仕方がない。気になった点は防災に対する対応である。天井や外壁の耐震工事が未実施であるということだったので、そこは最優先にすべきであり、それが学生はもちろん、高額な備品の保全にも繋がるからである。 ・業界標準の施設・設備は整っていると思う。常に最新の情報を把握し、それを学生に提供する必要があると思うが、機材や施設については必ずしも全て最新である必要はないと思う。どのような経過を経て、今はどんな状況にあるのか、学校と現場の違いを比較してもらいながら学んでいく環境として適していると感じる。機材やスタジオの貸出しを学生だけでなく卒業生も対象にしている事はとても良いと思う。新型コロナウイルス感染拡大防止の対策については細心の注意と努力をされていると思う。限られたスペースの中で難しい対応もあると思うが、防災面も含めて安心できるような環境づくりをお願いしたい。 ・学校環境すべてに感染対策を施さなければならなくなり各教室やロビーに消毒液や除菌シート、アクリル板の設置や換気などの対策をしたことは、社会的にも必要なことではあるが多くの学生を受け入れるための取り組みは評価できる。感染者を出さないということは、学生一人一人の行動制限をすることも難しいので一定数出してしまうことはやむを得ないと思うが感染を広げない対策については、教職員の努力と学生個人の意識で防止できる。インフラの維持も重要だが、まずは社会の一員としてすべきことを行うことが重要と評価する。	3

コ メ ン ト	評 定
・少子化問題は、あらゆる高等教育機関に共通する大きな問題である。貴校の知名度は国内にとどまるものでないことは、以前から明らかであるが、台湾に事務所を置くなど、アジア圏の学生受け入れに先見性があったと思われる。卒業生が韓国などで活躍しているとも聞く。偏差値教育とはまた別の実務能力を見る姿勢も、広く学生を受け入れる点で重要である。 ・保護者に対し理解度を高める活動や、体験入学、説明会、見学会などに加え、オンラインの活用などを始めており、今年の重点目標にも掲げている活動につながり、評価できる。また、社会人、大学生、留学生への情報提供や体制構築にも取り組んでおり評価したい。 ・多数のオープンキャンパス一覧をホームページに掲載し、学生募集に対して力を入れている事が感じられる。また、入学手続き等をホームページを利用して情報を提供している事は評価できる。 ・コロナ禍での学生募集の大変さは高校でも経験しているので理解できる。オンラインでの説明会の比率が多くなり、実際に蓋を開けてみてどの程度の出願があるかが読みづらい。紙の資料もコロナ禍では人によっては敬遠されるので、紙資料と同様の内容を電子媒体でも用意するなど、ピンチをチャンスに転換する試みを引き続き模索していく必要がある。 ・今の時代標準となった“オンライン”を活用して、体験入学や説明会を「対面型」と「オンライン型」のハイブリット形式にして運用できていることは大変評価できる。学生に身近な SNS での情報発信も積極的で良いと思う。 ・体験入学・オープンキャンパスなどで実際に足を運んで設備などを体験いただくような機会があり、入学後のギャップを減らすイベントについては評価できる。今年度は、コロナ禍とあってオンラインを活用し説明会も始められたことは評価できる。オンラインの活用は、便利であるが全体像が見えづらかったり体験が伴わないため実感しにくい面もありそういった課題を埋める施策も今後検討の余地があると感じる。	4

コ メ ン ト	評 定
・過去 3 年間の数値を分析し、適正な財務処理がなされているようである。HP 上で財務情報公開も行われており、問題は無い。 ・各年度の入学者数によって変動する収支に対して、支出計画とされている。経理関係者の教育にも対応しており問題は感じません。 ・財務情報をホームページに掲載し情報公開をしている事は評価できる。財務状況はバランスがとれていて監査もしっかり実施されている事が感じられる。 ・入学者数、在校生数の学費収入に見合った支出予算が常に行われることにより、教育研究費比率、人件費比率の数値が適正な状態を長期にわたり維持していることは大変評価できる。 ・入学者数、在校生数の学費収入に見合ったバランスの取れた収支となっていると思う。財務情報の公開も問題なくされている。 ・学生の確保が財政基盤の基本となるが、関係者の努力によって一定数の定員を確保しながらも施設や設備の改善など、支出も適切であり収支のバランスは安定していると思います。今後も継続していかれることを望みます。コロナ禍で外国人留学生の対応が課題になると予想されます。国内での学生確保が十分であれば大きな財政課題にはならないと思いますが要注意かと思います。	4

基準 9 法令等の遵守

コ メ ン ト	評 定
・学校が扱うのは、主として社会経験のない学生であり、彼等の個人情報に対する態度や、様々なハラスメントなど、法で簡単に判断を下すこともできない事例も起こりうる。未整備な規程に対しても、誠実に対応していこうとする姿勢がうかがわれる。 ・関係法令、設置基準の遵守、個人情報保護など適性の学校運営をされている。学校としてのコンプライアンスを確立し、学生たちが社会人となった後にも通用する教育を望む。 ・オフィシャルブログやSNSをホームページで紹介していますが、個人情報保護、知的財産権等の規則についてソーシャルメディアポリシーで規定している。 ・関係法令、設置基準の遵守、個人情報の保護、そしてそれらの客観的チェックとしての学校評価を良いバランスで実施しており、遵守事項は厳しく守られている。 ・遵守の徹底、学生からの意見の受付体制や周知の徹底などしっかりしていると思う。個人情報の保護について、教職員・学生に対してしっかり啓発活動が成されていることが評価できる。充分過ぎるくらいの周知の徹底と正しい認識を引き続きお願いしたい。 ・多くの学生を有していることから個人情報の保護については、日頃からしっかりと取り組んでおり評価できます。また、その他の関係法令についても評価と見直しを担う部署あるいは委員会を明確にし改善に取り組んでいる活動も評価できる。社会的には、安易な SNS の発信が大きな社会問題となるような事案も見受けられます。ハラスメントに関する案件もあり教育現場も注意が必要でしょう。SDGsが注目されている今、学校も学生に対してSDGsへの取り組みをを課題として人間形成や考え方を指導する必要があると感じます。	3

コ メ ン ト	評 定
・近隣清掃やボトルキャップ回収、そしてボランティア活動の授業化など、学生にもわかりやすい形で社会貢献を視覚化している。コロナ禍にあつて、2020 年度は実施が難しかったようだが、それは仕方のないことである。 ・横浜市の小学校と「防災アニメーション」の共同制作など学業を生かした活動は大きく評価したい。ボランティア活動は、新型コロナの影響から厳しい事は仕方ない。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、社会貢献、地域貢献等の活動が困難だったと思います。活動が実施できるようになった時は模様をホームページ等で公開することによりイメージアップにつながると思います。 ・これまで実施してきた社会貢献、地域貢献、ボランティア活動がコロナ禍で実施されなかったのは残念である。やり方を変えて、持続可能な方法を見いだしていくべきである。コロナ禍が収まってもコロナ禍以前のような社会にもどるとは考えにくい。 ・地域交流やボランティア活動で地域に貢献し、人と関わることは学生にとって貴重な機会であると思う。コロナ禍で行動制限がかかり、その機会が少なくなったかと思うと残念である。学生の自主性を高める良いきっかけになるはずなので、情勢に合わせて形を変えながらも継続してほしいと思う。 ・コロナ禍とあつてイベントの中止などが相次ぎこれまでのボランティア活動が難しかったのではないと思う。そのような中で資源のリサイクルを周知徹底させる取り組みは良いと思う。先の法令順守でも書いたが、今はどの企業も SDGs の取り組みが課題となっており取り組みどころが少ないエンターテインメント業界がどのような分野で貢献できるか学生と共に考え社会貢献とは何かを考える良い機会だと思う。是非、何かの授業として取り組んでいただきたいと思います。	3

所感

・昨年に続き、コロナ禍の中で、この評価委員会も対面での実施はできなかった。在学期間のほとんどを、このような状況で過ごすこととなった学生は、さぞ自分たちの身の不幸を嘆いているだろう。だが逆境のなかから、多くのエンターテインメントが生まれてきたこともまた事実なのである。社会で役立つ技術を教える学校もあるだろうが、社会そのものが予想もしない形で変容することを、学生たちも身をもって知ったはずである。社会が、どのように変化していこうと、人々が娯楽を求める気持ちは変わらない。今後もエンターテインメント界に多くの人材を送り出してほしい。

・この2年間、新型コロナに振り回されている放送・エンタメ業界ですが、御校にとってもその影響は大きく、ご苦労を強く感じます。しかし、苦しい中、ニューノーマルとしてテレワークやオンラインを使用した作業も行える事で作業フローの見直しも進み、無駄を省く事が出来るようになってきました。おそらくコロナが終息した後も、このフローは生かされて行くと思います。半面音楽・イベントライブなどのエンタメは自粛の反動から一気に賑わう事も予想でき、就職面での期待も高まるのではないのでしょうか。報告書を拝見し、随所に中長期的な計画に触れておられますので、今までの固定概念を少し崩し、新しい学校様のスタイルを構築できるチャンスだとも思っております。お金のかかる事ですので、容易ではありませんが、御校の伝統となっている「TOHO メソッド」を新たなメソッドに転じ、育成を始め、業界に優秀な人材を送り込んで頂きたく存じます。

又、大胆な提案かもしれませんが、遠隔地の若者に向けて、「オンライン専門就学コース」なども設けたらどうでしょうか？

・教育理念が明確になっていることから、行動指針、教育方針にしっかりしたポリシーがある事が感じられます。メディアとエンターテインメントに携わる人材育成に向けて、努力している事が伺われました。

・次年度高校に入学してくる学年が新カリキュラム世代である。主体性教育などが強調されているので、これまでのように専門学校は大学に進学できなかった生徒の受け皿ではなく、目的意識の高い生徒の進学先に昇華していくはずである。入学してくる生徒の意識が変わってきていることを意識した攻めの学生募集をしていく必要があると思います。

・長引くコロナ禍の中で、生活様式や働き方だけでなく、世の中の意識も大きく変化した。その中で貴校は柔軟に対応し安定した学校運営とオンライン化も取り入れた教育環境の構築へ努力していることが窺える。課題は多いかもしれないが、これまで培った実績と信用を糧に変わらぬ理念で業界から信頼される良い人材の育成と教育に尽力して頂きたい。

・新型コロナウイルスの影響で全てが一変してしまった感のある状況です。エンターテインメントに関わる業界としては、イベントが行えず仕事が無い状況が続きました。学校もオンライン授業などを駆使しながらも校内の感染対策を施し対面授業ができる環境を作り出し学生を迎え入れることが出来たことには、最大の評価をしたいと思います。卒業していった学生さんは、コロナ禍の就職活動でとても大変だったでしょう。バックアップされていたキャリアサポートセンターや教職員の皆様のご苦労も多かったと思います。このコロナ禍で You Tube など動画に注目が集まり企業という概念が薄れ個人で動画配信することで利益を得ようとする若者が増えたように感じます。今後は、映像制作を学ぼうとする学生が増えてくるのではないかと予想しています。

以上